ELLE Japon
Décembre 2003

クラウディアの後ろの写真はヴァネッサ・ビークロフトの作品。椅子は'50年代のベルトイアの作品。自然光が美しいアパルトマンで、コンテンポラリーアートの最先端と巨匠デザイナーの家具が洗練された空間を生み出す。

Part 1 アートピープルのおしゃれな生活とは?

パリ、ロンドン、ニューヨーク……。おしゃれを楽しむようにアートを楽しむ、海外のアート・ピープルたち。その優雅で洗練された暮らしぶりをリポートします。

photo KHALIL [Paris], KUMI SAITO [London], SHOJI VAN KUZUMI [NY] /
text EKO SATO [Paris], MAKIKO FURUSAWA [London], YASUKO SOUMA [NY]

1 壁には、ヴァネッサ・ビークロフト（左）、グザヴィエ・ヴァイアン（右）の作品。クラウディアにとってビークロフトはもっとも好きなアーティスト。「ヴァネッサとは10年以上も前からのつき合い。権力や社会のヒエラルキーなどを題材とする彼女のアプローチは、とても興味深い」とクラウディア。
2 フランチェスコ・ヴェゾリの作品。
3 窓からサンマルタン運河の素敵な景色が眺められるリビング。

4 ギャラリーのオーナーでもある夫のフレデリック・ブガダと。アート・ディレクターのクラウディアとビジネス・ディレクターのフレデリックは毎朝、自宅でゆっくり画廊の打ち合わせをする。「僕たちは本当の意味でベター・ハーフ。最高にバランスのある関係です」とフレデリック。
5 ル・コルビュジエのラウンジ・チェアがコンテンポラリーアートと見事にフィットしている。

Paris

アートがインテリアに溶け込む優雅な空間

ギャラリスト
クラウディア・カルニエル

Claudia Cargnel　アーティストの多い家庭に生まれる。エレクトロニック・エンジニアリングの仕事に就くが、スイスのアナリックス・ギャラリーのオーナーとの出会いで、同画廊のディレクターに。9年後に独立し、2002年、2人のパートナーとパリでコスミックギャラリーをオープン。
「COSMIC GALERIE」　76,rue de Turenne, 75003 Paris
☎01.42.71.72.73

パリ10区にあるサンマルタン運河が流れる地域は、今、ハイセンスな人に大変人気のある場所である。窓を開けると運河が見える、そんな素敵なアパルトマンで迎えてくれたのはコスミック・ギャラリーのオーナーの一人であり、アート・ディレクターでもあるクラウディア・カルニエル。薄い桃色の革のドレスにハイヒール姿の彼女は、今パリで最もフェミニンなギャラリストと言っても過言ではないだろう。

マレ地区にある17世紀の邸宅を改造した600㎡にもおよぶ彼女の広い画廊では、これまでにマット・コリンショーやヴァネッサ・ビークロフトの展覧会などを開催してきた。ここで開催される個展はいつもパリのなかの小さなイベントのような感覚で、アーティストたちが未発表の作品を大きく、強く表現できる場所だといわれている。「私の画廊でアーティストたちに、自分のビジョンを最大限に表現してもらいたいと思っています。個人の画廊でオリジナル作品の発表を、これだけ広いスペースで行える場所はほかにはありませんから」と、クラウディア。

彼女自身は、年の3分の1以上は外国のアート・ビエンナーレや展覧会へ出張し、日曜日も家でゆっくりする機会がほとんどないというスーパー・ウーマン。同ギャラリーのオーナーでもある、夫のフレデリックと暮らすアパルトマンは、自然光の優しい光が気持ちよい素敵な空間だ。家にはル・コルビュジエやペルトイアなど、30年代から50年代のしゃれたデザイン家具と彼女が愛するアーティストたちの作品がバランスよく飾られている。

芸術とモードを愛するスーパー・ウーマン

多忙なクラウディアだが、暇な時間があると、マレ地区にある高級セレクト・ショップ、「レクレルール」に通う。好きなブランドは、トム・フォードによるイヴ・サンローランとエミリオ・プッチ。ハイヒールも大好きで、シャンゼリゼ通りにある靴のセレクト・ショップ、「ビオンディーニ」がお気に入りだ。仕事上愛読しているアート雑誌は『フラッシュ・アート』。ファッション誌では『セルフサービス』が好きだという。理由は、「エッジを上手に表現している」から。

ギャラリストという職業の最大の魅力は、「非常に強い個性の持ち主と出会い、一緒に仕事ができること」と、クラウディアは語る。仕事をしたアーティストとは、いつも友情に近い関係を保っているそうだ。